

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	平成29年3月13日
【四半期会計期間】	第17期 第1四半期(自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日)
【会社名】	ベルグアース株式会社
【英訳名】	Berg Earth co.,ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 一彦
【本店の所在の場所】	愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1
【電話番号】	0895-20-8231(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳
【最寄りの連絡場所】	愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1
【電話番号】	0895-20-8231(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第 1 四半期連結 累計期間	第17期 第 1 四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自 平成27年11月 1 日 至 平成28年 1 月31日	自 平成28年11月 1 日 至 平成29年 1 月31日	自 平成27年11月 1 日 至 平成28年10月31日
売上高 (千円)	431,649	501,760	4,395,994
経常損失() (千円)	245,212	236,290	91,604
親会社株主に帰属する 四半期純損失()又は 親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	160,975	159,160	13,981
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	192,301	171,739	58,732
純資産額 (千円)	1,164,261	1,231,522	1,415,959
総資産額 (千円)	3,473,904	3,218,505	3,727,160
1 株当たり四半期純損失金額() 又は 1 株当たり当期純利益金額 (円)	126.78	125.35	11.01
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			11.01
自己資本比率 (%)	30.0	32.3	32.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第16期第 1 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第17期第 1 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1 株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当社グループの第1四半期連結累計期間(11月～1月)の業績につきましては、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少する時期であるため、売上高が他の四半期と比較して少額となる傾向にあります。一方、コスト面では、減価償却費や間接部門の人件費等が各四半期に概ね均等に発生することに加え、燃料費等の冬季経費が発生するなど季節的な業績変動要因があります。

このような状況ではありますが、野菜苗生産販売事業の売上が好調に推移したことにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は501,760千円と前年同四半期と比べ70,110千円(16.2%)の増収となりました。損益面につきましては、営業損失235,035千円(前年同四半期は営業損失244,099千円)、経常損失236,290千円(前年同四半期は経常損失245,212千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は159,160千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失160,975千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

野菜苗生産販売事業

当事業部門におきましては、閑散期の受注拡大のために取組んできました関東向けのピーマン、メロン苗やホームセンター向けの玉ねぎ苗等の売上が好調に推移したことにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は439,833千円と前年同四半期と比べ77,675千円(21.4%)と大幅な増収となりました。損益面につきましては、前期より生産を開始したベルグ福島株式会社の育苗施設に係る減価償却費や人件費等の製造費用が増加した結果、セグメント損失(営業損失)は121,575千円(前年同四半期はセグメント損失132,208千円)となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	154,884	116.9
キュウリ苗	138,355	111.4
ナス苗	11,317	101.1
スイカ苗	8,965	139.4
メロン苗	86,600	125.6
ピーマン類苗 (注)	13,068	1,201.1
その他	26,640	149.5
合 計	439,833	121.4

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm～15cm)	206,655	123.7
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ等)	143,161	120.0
セル苗(288穴～72穴)	70,393	115.5
その他	19,622	131.2
合 計	439,833	121.4

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	39,195	98.9
関東	287,780	119.5
中部・甲信越・北陸	45,866	127.8
近畿・中国	22,730	123.2
四国	17,007	182.9
九州・沖縄	27,253	151.7
合 計	439,833	121.4

流通事業

コンビニエンスストア部門の売上高は38,883千円(前年同四半期比7.4%増)、資材部門の売上高は16,181千円(前年同四半期比0.1%減)、農産物部門につきましては、事業縮小の方針で進めている為、売上高は4,357千円(前年同四半期比70.7%減)となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における流通事業の業績は、売上高59,422千円(前年同四半期比11.7%減)、セグメント損失(営業損失)5,084千円(前年同四半期はセグメント損失8,882千円)となりました。

海外事業

当事業部門におきましては、中国山東省にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸を展開しております。また、当連結会計年度より海外事業部門を新設し、海外での事業拡大に向けて技術開発並びに中国国内を中心に農業関連のマーケット調査や市場開拓等を積極的に行っております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,504千円(前年同四半期比13.2%増)、セグメント損失(営業損失)19,256千円(前年同四半期はセグメント損失8,812千円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ508,655千円(13.7%)減少の3,218,505千円となりました。これは、現金及び預金の減少104,278千円、受取手形及び売掛金の減少556,632千円、棚卸資産の増加108,611千円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ324,217千円(14.0%)減少の1,986,982千円となりました。これは支払手形及び買掛金の減少193,339千円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ184,437千円(13.0%)減少の1,231,522千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は16,802千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年3月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,269,900	1,269,900	東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	1,269,900	1,269,900		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年11月1日～ 平成29年1月31日		1,269,900		331,494		241,494

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,268,000	12,680	
単元未満株式	普通株式 1,800		
発行済株式総数	1,269,900		
総株主の議決権		12,680	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成29年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ペルグアース株式会社	愛媛県宇和島市津島町北灘甲 88番地1	100		100	0.0
計		100		100	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年11月1日から平成29年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年11月1日から平成29年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	430,106	325,827
受取手形及び売掛金	955,791	399,158
商品及び製品	10,047	8,948
仕掛品	73,010	158,666
原材料及び貯蔵品	95,511	119,566
その他	99,351	170,249
貸倒引当金	1,008	1,117
流動資産合計	1,662,808	1,181,298
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,138,381	1,109,919
機械及び装置（純額）	264,865	259,220
土地	479,224	481,683
その他（純額）	16,722	17,633
有形固定資産合計	1,899,193	1,868,456
無形固定資産	36,459	36,028
投資その他の資産	128,698	132,721
固定資産合計	2,064,351	2,037,206
資産合計	3,727,160	3,218,505

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	506,663	313,324
短期借入金	1 400,000	1 350,000
1年内返済予定の長期借入金	244,830	239,620
未払金	124,478	141,004
未払法人税等	4,232	4,998
賞与引当金	41,840	22,400
その他	59,688	47,843
流動負債合計	1,381,732	1,119,191
固定負債		
長期借入金	750,672	692,055
資産除去債務	71,397	71,621
その他	107,397	104,115
固定負債合計	929,467	867,791
負債合計	2,311,200	1,986,982
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	241,494	241,494
利益剰余金	640,256	468,398
自己株式	204	204
株主資本合計	1,213,040	1,041,182
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	180	966
為替換算調整勘定	1,185	1,589
その他の包括利益累計額合計	1,004	622
新株予約権	554	554
非支配株主持分	203,370	190,408
純資産合計	1,415,959	1,231,522
負債純資産合計	3,727,160	3,218,505

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年11月1日 至 平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日)
売上高	431,649	501,760
売上原価	448,106	500,219
売上総利益又は売上総損失()	16,456	1,541
販売費及び一般管理費	227,642	236,576
営業損失()	244,099	235,035
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	60	60
受取手数料	1,299	818
その他	1,309	1,138
営業外収益合計	2,673	2,020
営業外費用		
支払利息	1,368	1,109
持分法による投資損失	2,406	2,099
その他	11	66
営業外費用合計	3,787	3,275
経常損失()	245,212	236,290
税金等調整前四半期純損失()	245,212	236,290
法人税、住民税及び事業税	512	512
法人税等調整額	55,965	64,290
法人税等合計	55,453	63,778
四半期純損失()	189,759	172,511
非支配株主に帰属する四半期純損失()	28,783	13,351
親会社株主に帰属する四半期純損失()	160,975	159,160

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)
四半期純損失()	189,759	172,511
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,044	785
為替換算調整勘定	497	14
その他の包括利益合計	2,542	771
四半期包括利益	192,301	171,739
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	163,478	158,388
非支配株主に係る四半期包括利益	28,822	13,351

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当第1四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入金の未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	400,000千円	350,000千円
差引額	300,000千円	350,000千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
ファンガーデン株式会社	46,000千円	54,500千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成27年11月1日至平成28年1月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成28年11月1日至平成29年1月31日)

当社グループの第1四半期連結累計期間の売上高は、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少するため、他の四半期連結会計期間の売上高と比べて著しく減少する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)
減価償却費	47,561千円	47,857千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年11月1日至平成28年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年1月28日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	平成27年10月31日	平成28年1月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成28年11月1日至平成29年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	平成28年10月31日	平成29年1月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年11月1日 至 平成28年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	野菜苗生産 販売事業	流通事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	362,158	67,278	2,213	431,649	-	431,649
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,853	2,529	1,147	5,530	5,530	-
計	364,012	69,807	3,360	437,180	5,530	431,649
セグメント損失()	132,208	8,882	8,812	149,903	94,195	244,099

(注) 1. セグメント損失()の調整額 94,195千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	野菜苗生産 販売事業	流通事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	439,833	59,422	2,504	501,760	-	501,760
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	989	989	989	-
計	439,833	59,422	3,493	502,750	989	501,760
セグメント損失()	121,575	5,084	19,256	145,916	89,118	235,035

(注) 1. セグメント損失()の調整額 89,118千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成27年11月 1 日 至 平成28年 1 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年11月 1 日 至 平成29年 1 月31日)
1 株当たり四半期純損失金額()	126円78銭	125円35銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	160,975	159,160
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	160,975	159,160
普通株式の期中平均株式数(株)	1,269,756	1,269,756

(注) 前第 1 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第 1 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1 株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 3 月10日

ベルグアース株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 合 弘 泰	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	千 原 徹 也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているベルグアース株式会社の平成28年11月1日から平成29年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年11月1日から平成29年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年11月1日から平成29年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ベルグアース株式会社及び連結子会社の平成29年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。